



『祈る人の特権とその祝福③』

本日の聖書箇所：マタイの福音書(Matthew)6章9～15節・25～33節
(新改訳2017版)

説教者：鄭南哲牧師
(Rev.Jung nam-chul)

愛するクリスチャンプレイズ教会の信仰の家族のみなさん！寒かった一週間もお元気で、主の平安で守られましたか。残りの10月中にも与えられた家庭、職場、日々の生活の中で頑張っているみなさんの上に父なる神様からの御守りと主イエス・キリストの平安が、聖霊の神様からの導きと御助けが豊かに与えられますように切にお祈り申し上げます。

今日は主が教えて下さった主の祈りを通して祈る者の特権と祝福のメッセージ、その3回目の時間です。愛するみなさんはよく祈りを持って父なる神様と交わりつつ、父なる神様との関係を保って歩まれましたか。イエス様が弟子たちに“祈りについて”ではなく、“祈りを教えて下さい。”と懇願したあの祈りへの情熱とイエス様の祈る習慣を私たちの身にもつけられますように切にお祈り申し上げます。ねがわくならば、今日の御言葉の時間が単なる祈りについて、聖書の知識を得る時間だけにならないように祈ります。この主の祈りとともに学んでいくうちに聖霊の神により、我々の上に祈りの霊がますます注がれ、祈りの答えを実際に体験して行くクリスチャンプレイズチャーチの全信仰の家族と全牧場となりますようにお祈り申し上げます！

祈る事、それは何か困ったり、祈り課題があるの手段の程度ではなく、つねに父なる神様との関係をつながらせる交わり、神の御名をあがめる大切な手段である事を忘れないで下さい。ですから、祈らずに、父なる神様と良い関係の状態だとは言えません。常に祈る習慣がないまま、父なる神の御心が常に自分を通して全て全う出来るわけには行けません。祈らなければ、人々や周りの出来事により、つまずきやすくなり、感情的に巻き込まれやすく、押し流されやすくなり、また誘惑に負けやすくなってしまいます。

ですから、残りのこの10月と今年、これからの我々の人生の勝負は、まず、父なる神様とどんな関係を保って日々生きるか、その祈りによるでしょう。ますます我々が祈る姿すら、イエス様に似ていくみなさんとなりますように切にお祈り申し上げます！！

<1. 福音書のテーマである神の御国>(マタイ4:17・23・7章21節・ヨハネの黙示録21章1-8節)

今日は主の祈りの中で「御国が来ますように。御心が天で行われるように、地でも行われますように。」の御言葉を通してみなさんとともに学びながら、その恵みを分かち合いたいと思います。

今日のこの箇所はまるで、花の若芽(わかめ)のように、目玉のように大切な内容です。なぜなら、イエス様の働き自体が神の御国のための生涯だったからです。イエス様が公に一番初めに述べ伝えられたことが「悔い改めなさい。神の国が近くなった！」というイエス様の宣言でした。イエス様は神の御国のために来られ、御国のために働かれました。絶えず御国について教え、そして、神の国のために必ず祈るように教えて下さいました。

使徒の働き1章を読んでみますと、イエス様が地上で働きを終え、天に昇られる前、弟子たちと一緒に過ごしながら言われた言葉の主題もやはり御国についてだったと記されています。事実、神の御国については主の祈りだけではなく、聖書全体の主題であり、四つ(マタイ、マルコ、ルカ、ヨハネ)の福音書全体の大切なテーマでもあります。マタイの福音書では49回、マルコの福音書では16回、ルカの福音書では38回も神の御国について語られています。

イエス様は具体的に神の御国に対してヨハネの福音書14章1-3節にもこう語って下さいました。「あなたがたは心を騒がせてはなりません。神を信じ、またわたしを信じなさい。2わたしの父の家には住む所がたくさんあります。そうでなかったら、あなたがたのために場所を用意しに行く、と言ったでしょうか。3わたしが行って、あなたがたに場所を用意したら、また来て、あなたがたをわたしのもとの迎えます。わたしがいるところに、あなたがたもいるようにするためです。」

そして、愛する信仰の家族のみなさん！新約聖書の一番最後に出ている聖書の中ヨハネの黙示録21章1-8節では、「1また私は、新しい天と新しい地とを見た。以前の天と、以前の地は過ぎ去り、もはや海もない。2私はまた、聖なる都、新しいエルサレムが、夫のために飾られた花嫁のように 整えられて、神のみもとから、天から降って来るのを見た。3私はまた、大きな声が御座から出て、こう言うのを聞いた。「見よ、神の幕屋が人々とともにある。神は人々とともに住み、人々は神の民となる。神ご自身が彼らの神として、ともにおられる。4神は彼らの目から涙をことごとくぬぐい取ってくださる。もはや死はなく、悲しみも、叫び声も、苦しみもない。以前のものが過ぎ去ったからである。5すると、御座に座っておられる方が言われた。「見よ、わたしはすべてを新しくする。」また言われた。「書き記せ。これらのことばは真実であり、信頼できる。」6また私に言われた。「事は成就した。わたしはアルファであり、オメガである。初めであり、終わりである。わたしは渇く者に、いのちの水の泉から、ただで飲ませる。」7勝利を得る者は、これらのものを相続する。わたしは彼の神となり、彼はわたしの子となる。」を読んで見ますと、使徒ヨハネは神が見せて下さったまぼろしを通して、実際神様の御国を拝見させて頂きかなり詳しく書かれていることが分かります。神の御国は必ずし存在するところであることを聖書とイエス様は明確に教えて大切さを強調して下さいました！

<2. 神の御国はどんなところでしょうか。>

それでは、愛するみなさん、**神の御国はどんな所でしょうか。**一般的に国を構成するには、「**領土・国民・主権**」が必要だと言われています。その基準で考えて見ますと、神の国には、神ご自身が全て主権を持って完全に治めておられるところ、神を信じ、従う神様の民たちがおり、単なる抽象的ではなく、実際に詩空間的に神の国は実際体験出来る存在であります。

しかし、みなさん、もっと分かりやすく神の御国がどんなところでしょうか。主の祈りの中で今日の本文「御国が来ますように」の次に出ている箇所を見て見てください。「**御国が来ますように！**」の次は何ですか。みなさん。そうです。「**御心が天で行われるように地でも行われますように**」と教えてくださいました。ここでイエスキリストが教えて下さっているのは、**神の国は実際存在するところであることを聖書ははっきりと教えて下さっています。来世的なところだけではなく、生きているうちにも実際体験出来るところであることを教えて下さっています。つまり、神の御心通りに全てが行われるところであるなら、そこで神の国を体験することが出来ることを教えて下さっていることが分かります。**

父なる神の御心通りに行われる所であれば、どんな所であれ、そこに**神の御国が訪れている、神の国となる**ということが主イエスは教えて下さった内容であります。

愛する信仰の家族のみなさん！新約聖書の一番最後に出ている聖書の中ヨハネの黙示録を読んで見ますと、使徒ヨハネは神が見せて下さったまぼろしを通して、実際神様の御国を拝見させて頂き書かれています。神の御国の道はまるで黄金の道であって、すべての家は十二宝石みたいに言い表せないほど美しく作られていたと言っていますが、ヨハネの知っている表現の最高の表現だったと思うので、私は天国がこの御言葉の表現より、はるかに美しいところだと信じています。

しかし、そんな黄金の道や宝石などがあるわけで、神の御国が天国らしくなることではありません。**天国が天国らしくなる真の理由はほかにあります。それは天国のすべての人々がみずから天の父なる神様の御心通り従って、そこにいる人々は神の御心を喜んで行なっているからです。**天国にいる誰一人例外はありません。なので、もし、神の御恵みと愛の統治の中にみんなが神の御名をほめたたえ、感謝しつつ、父なる神様の御心、御言葉通りに行われているならば、まさにそこに神の国、御国、天国ではないでしょうか。

愛するみなさん！考えて見て下さい。心、考え方、価値観が全然違って、ばらばらでお互いにも通じない夫婦、まったく会話も、相通もない家族より苦しいことはないと思います。なので私が若い人々向けの結婚セミナーで教える時には、将来の配偶者のために、いろんな表の条件に捕らわれず、それより大切なことに心を向け、心が通じているか、相通が出来るのかにより大事なポイントを持って進めています。

同じように、**神の御心が通じ行われるところ、神様との密な交わりのあり、御言葉が通じ、御言葉通り成就されるところになっていれば、その人の心に、その家庭の上に、その牧場の上に、その教会の上に、神の御国が訪れているのではありませんか。**

最近みなさんの心には神の御国が訪れているでしょうか。みなさんの家庭の上に、職場の上に、我々の教会の上に神の御国が訪れ、体験されているでしょうか。みなさんは生活の中でも主の御心を探り、聞き従っているため、神がみなさんの人生のすべてを治める神の御国の恵みをいつも実際体験し、味わっていくみなさんとなりますように切にお祈り申し上げます。

<3. 我々にとって最も大切な御国への祈り>

イエスが教えて下さった今日の箇所もとても短いですが、神の御国がこの地に、我々のうちに、家庭に、かかわっている全てのところに望まれるようにイエスは弟子たちに祈れるように教えて下さいました。神の御国を求める祈りはもっとも大切な祈りです。なぜなら、**“神の御国”の中には私たちが求めようとしているすべてが含まれているから**です。神の**真の平安、悲しみからの真の喜び**が、願いや必要が全て神により満たし、神の癒しと回復、勝利の力すべてが含まれているからです。

もし、**私たちがいくら何回も祈ったとしても神の国の臨在の祈りを除いて祈るなら、それは、一番大切なことを抜き取った祈りになってしまいます！**イエスが教えて下さったように「**御国が来ますように**」と祈るなら、個人的に自分のいくつかの願いがぬき取られたとしてもそれは完璧な祈りとなるのです。それほどこの箇所は大切です。

なぜ、神の国を祈り、求める事が大切でしょうか。愛する信仰の家族のみなさん、我々がイエスを信じる理由は何ですか。

それは神のよる救いを得るためでしょう。救われることこそ、私たちの究極的な信仰の目的です。救いというのは一言で言わせると、**神の御国の民となること、神の御国に入り神とともに永遠に生きることだと言えるでしょう。**いつか我々みんなは一度のこの地上での人生の生涯を終える時が来ます。神の御言葉では人生を終えた後、すべてがお終いではなく、かならず生きておられる父なる神の御前に立たされ、預けられていた人生のすべてを清算される時があり、その後、神の御国(天国)と第二の死、永遠の死のところである地獄が待っていることを聖書は明確に教えて下さっています。

しかし、神の国というのは時間と空間の制約を受けるところではありませんので、ただ死んだ後でだけ入るところだけではなく、この地においても、いくらでも味わえる永遠の国なのです。

ようするに、イエスを信じるなら、死んだ後にも天国には入れますが、生きている間でも地上の上にも神の国は臨まれ、天国の生活を味わえるということです。

いつかみなさんに申し上げましたが、**事実、もしも神の御国がなければ、私たちはイエス・キリストのみを信じる何の理由もないかも知れません。**イエスの時代、多くの人たちがイエスを追いかけました。なぜでしたか。イエスを信じれば健康になり、イエスを信じれば食べ物も心配しなくても良いということとか、自分たちのすべてを満たして下さるだろうとなどがイエスを追

いかけた多くの群衆たちの理由でした。今日も、多くの人の中でも、イエス様を信じる理由が、ただ物質と健康、昇進、進学など程度の祝福を頂くぐらいで、もし、イエス様を信じる理由、祈る目的がただそのぐらいだとすれば、みなさん、かならずイエス様のみを信じる必要がないかも知れません。みなさん、実際よく周りを見て下さい。この世の中で別にイエス様を信じていない人たちの中でも健康な人やお金をたくさん持っている金持ちの人たちはたくさんいます。イエス様を信じなくても、イエス様を知らないのにもかかわらず、物質に満たされたりや健康に恵まれている人たちや、職場で昇進し、成功している人々も、名門の大学に進学している人々も多くいるでしょう。そのようなことがイエス様を信じる目的であるならば、かならずしもイエス様のみを信じなくても良いかも知れません。

しかし、クリスチャンプレイズチャーチの愛する信仰の家族のみなさん！だれでも神の国には入れますが、だれもが入れません！イエスキリストを信じなくては、この世でどんなに金持ちで、成功して、元気で、良い評判を持っていても、救いは得られません。この世の中でどれほど出世して、強い権力を持っていて、金持ちだとしてもイエス様を信じなくては、決して御国に入れません。天国の市民になりません。反面、たといこの世では認められず、あんまり健康でもなく、経済的にもそんなに余裕がない状態であってもイエスキリストの御名をわが救い主として受け入れ、信じた者たちはどんな人でも、聖書の父なる神の約束通り、神の御国の門は開かれています。

しばらくのこの世での裕福な生活と永遠の御国での時をどう比べることができるのでしょうか。

愛するみなさん、人生の真の勝利者はだれですか。それはこの世での生活で決められるわけではありません。結局、しばらくのこの世での人生を終えた後、決まります。その人が永遠の神の御国に入れたかどうかが**本当の人生の勝利の基準になります。**それにもかかわらず、イエス様を信じる私たちがひたすら神様にただ自分の物質と健康と出世の道、そのぐらいの祝福だけいつも祈り求めているならそれは、イエスキリストが教え、与えて下さった神様の御国という一番大切に求め、頂ける事を見逃していることとなります。

信じる「我らの国籍は天にある！！ピリピ人への手紙3章20節(新約聖書)「私たちの国籍は天にあります。そこから主イエスキリストが救い主としておいでになるのを、私たちは待ち望んでいます。」

しかし、神の御国はこの世をさってからだけではなく、生きているうちにも、すでに御国の民として、神の国を体験することが出来るのです。どうやって可能でしょうか。

みなさんがよくご存じのように、イエスキリストは祈りを教えてください、「御国が来ますように」と、「御心が天で行われるように、地でも行われますように。」と日々、常に祈ることにより、生きているうちにも、日々の日常生活の中でも実際神の御国を体験することが出来ると約束して下さっています！日々、目の前の忙しいことで心捕らわれている我らに、忙しい生活の中祈りを通して神の御国をいつも忘れず、覚え、望んで行くように「御国が来ますように」と祈りなさいと教えて下さったと信じます！

<4. 御国に入るためには？>

愛するクリスチャンプレイズチャーチの信仰の家族のみなさん！神の子ども、神の家族にならなければ、全てを造られた創造主の神を父なる神として呼べる人じゃなければ、決して神の国入ることが許されないのです！

だれが、どうすれば、神の子ども、神様を父なる神様と呼べる関係になれるのでしょうか。

ヨハネの福音書1章12節「しかし、この方(イエス・キリスト)を受け入れた人々、すなわち、その名(イエス・キリスト)を信じた人々には、神の子どもとなる特権をお与えになった。」

そうです！イエスキリストを信じる全ての人々にはどんな人であっても神の子どもとされる特権はお与えになる、それが特権になる意味の中には父なる父なる神の家、父なる神の国に入れるという信じられない祝福の約束と特権であるわけです。

神の国にはお金がなくても、何か代価を払わなくてもだれでも入れる神の国、天国なのです！しかし、ある程度のイエスキリストをも信じ、半分気持ちで、頼るぐらいでは入れるところでは決してありません。主イエスキリストのみを信じる絶対信仰だけがあれば、それで神の御国は赦され、十分です。いや、それがなければ決して入れないと言う事が変わらない聖書の神の約束であります。その信仰を持っている人はかならず、罪赦されるだけではなく、神のこどもとなる特権がお与えになるので、いつでも、この地上を終えても、神の御国を相続することが出来るようになります。

神の御国には公平で、だれでも入る事が出来る機会が与えられているのです。

とんだ者にでも公平なのです。だれでも御国に入ることができます。だれにも差別なく同じ資格があるわけなのです。

イエスキリストとその御国への100%の絶対信じる信仰(信仰の証明:信仰告白+洗礼)がなければ、ただ部分的な50%、80%ぐらいの信仰では決して神の御国に入れません。中世時代には、墮落していたローマ・カトリックは人々からお金をもらって、天国行きのチケットを売り買いするほど腐敗され、歪曲された教会の時代もありましたが、1517年「神の救いはただ主を信じる信仰によるもの！」という聖書中心の宗教改革運動がドイツのマルティンルター先生によって起こされました。神の御救いは、お金でも、人の良い行いでもなく、聖職者によるものでもなく、ただ全的に信じる信仰によるのみである(ローマ1章17節ただ信仰によって生きる!)のだと世界に改めて悟らせ、目覚めさせる決定的なきっかけとなったわけです。

今日私とみなさんにとって神の国はどのぐらいの価値があり、意味があるのですか。地上の人生がどうだったとしてもその後、永遠の神の御国に入れる人こそ、神から許されたこの地上で誠に成功した、祝福された人生だと信じます。

御国に対してみなさんはどんな態度をとっているのですか。みなさんは、もし、今日が神様から許された最後の日であるならば、今日みなさんは召されるならば、その後、必ず、神の御国に入れる揺るがない信仰の確信を持っていますか。みなさんの家族、子どもたちはいかがでしょうか。

まあ、天国に入れば嬉しいし、そうじゃなければ、しょうがない、仕方ないぐらいでしょうか。

すべてをかけたも、心から救い主なるイエスキリスを心から受け入れ、信じて、御国にかならず入れる、その信仰の確信、救いの確信をみんな持って御国への備えが出来るみなさんとなりますように切にお祈り申しあげます！！

<5. まず、神の国を求めましょう！>

愛する信仰の家族の家族のみなさん！私たちは人生の中で、仕事の中で、先にやるべきことがあり、後にやるべき優先順位のことがあると思います。もし私たちが後にやることを先に済ませ、先にやるべきことを後回しにしてしまうなら、私たちの人生や仕事はどれほど混乱し、複雑になってしまうのでしょうか。だから、みなさん、我々はいつもこのサタンの戦略や試みに惑わされてはいけません。

祈る時にも、いつも自分に具体的に必要な物を求める前に、まず先に、神の国が訪れるように祈りなさいと教えて下さいました！当然人にとって食べ物と着る物などはとても大切な話題でもあります。人にとって衣食住(いしょくじゅう)の三要素は欠かせないものです。だからイエス様も教えて下さった主の祈りの中、“今日の日用の糧がお与えくださるように”祈りなさいとも教えて下さいましたが、主イエスキリストは、我々が神に個人的に自分に必要なことを求める前に、先に求めるべきことがまず、御国が来ますように、神の御心が天国で行われているように地(わがうちに、わが家庭に、わが牧場に、わが職場に)でも行なわれるように祈りなさい、と教えられました！

涙があり、離別の地であり、苦しみ、疲れ、悩みとさまざまな試練と戦いのあるこの地上で、今日の我々の人生の上にも、家庭の上にも、職場の上にも、我々の教会の上にも神様がすべてを治めて下さって、神様の御心通りにすべてが行われ、成就され、守られ、神の国のようになれるから、そのように是非祈りなさいと教えて下さったのです。

あの有名な**マタイの福音書6章31-33節**を読んでみましょう。

「6:31ですから、何を食べようか、何を飲もうか、何を着ようかと言って心配しないでよいのです。32これらのものはすべて、異邦人が切に求めているものです。あなたがたにこれらのものすべてが必要であることは、あなたがたの天の父が知っておられます。33まず神の国とその義を求めなさい。そうすれば、これらのものはすべて、それに加えて与えられます。」

今日自分の家庭に神の国が訪れているのか、神の御心通りに我が家の中で行っているのかが大切なのです。我々の教会もそうでしょう！今何人集まっているのかではなく、我々の教会の中に、牧場の中に心から神の国を求めて祈っているか。そして神様の御心通りに、主の教会が喜んで従って行っているのか、神の御国のように喜びと感謝、溢れる主の恵みを味わっているのかが大切ではないでしょうか。

本日、日々、ここに集っているみなさんと我々の愛する子どもたちの心の中、人生の中に、今もなお我々と共におられる父なる神がすべてをすべ治め、見守り、導き、満たして下さいますように祈りませんか。そして、みなさんの家庭と職場とこの教会、牧場など我々が関わっているすべての領域において神の国が来ますように！共に求め祈って行きましょう。そうすればかならず、父なる神は今も信じ求める祈り通りに、神の御国の豊かなさを味わえるように、実際体験出来るように答えて下さると信じます。

今も祈り求める全ての人々のうちに、神の国は死んだ後だけではなく、この地上で生きているうちにも、日々の生活の中でも、訪れ、体験出来るどころである事を約束して下さいました。みなさんはこのイエス様の約束を信じていますか。

信じて祈るすべての人々に天の父なる神様はご自分の国のすべてを必ず、我々に実際に与え、体験させて下さいます。

(神の御国で行われているように、天の慰めを通して、我らの全ての悲しみ、涙をぬぐいとして下さいます。耐え難い苦しみと痛みから癒し、全てを回復させて下さいます。全ての神の恵みのうちに心から主に感謝を捧げ、主を褒め称えることが出来る。死の恐れから、御国への望みに変えて下さる、人生の虚しさから生ける希望と生ける父なる神からの目指す人生の目的を頂けず、全ての罪を赦して下さい、様々な戦いの中で乳なる神の勝利を！どんな状況におかれても、父なる神の力強い御助けと見守りを、この世が知らない神の平安を頂けます。飢え渴きもなく、全てを知っておられる神様は我らに必要な全てを備え、与え満たして下さいます。)

愛するクリスチャンプレイズチャーチの信仰の家族のみなさん！

神の御心とご計画が全て成就され、全て治めておられるところこそ、人にとって、一番安全と安心出来る憩いの安息出来る場所ではありませんか。なのに、神の御国をまず、第一に求めないわけがあるのでしょうか。いつも我らの祈りの中で、いつも神の御国が訪れるように忘れず、祈り続けて行きましょう。

今日イエスキリストが教えて下さった祈りを通して、教会の家族みんなが、神ご自身が統べ治めておられ、見張り、見守りつつ、すべてを満たして下さいする神の御国を日々体験し、みんなが所有することが出来ますように、日々神の御国の中神の救いの御業を見守りを、満たしを、癒やし、回復させる神の豊かな恵みと力を体験最後の10月の一週間となりますように切にお祈り致します。願わくは、地上であつても神の救いを得られた最高の神の国の民、神の子どもとなり、この地上でも、この地上を去ってからの永遠の時であつてもでも、神の御国で神と共に生きるクリスチャンプレイズチャーチの全神の家族、全ての牧場の家族となりますように主イエスキリストの御名によってお祈り申し上げます。アーメン！